令和７年度　学校評価アンケート集計結果について

山形県立米沢東高等学校　学校評価委員会

今年度のアンケートは、令和７年１２月１２日から令和７年１２月２６日まで実施した。アンケート対象者は、本校生徒全員とその保護者、教職員である。保護者の回収方法は、令和４年度より連絡用ツール「さくら連絡網」を利用した Google フォームでの実施とし、スマートフォン・パソコン等を利用しての入力である(スマートフォン・パソコン等で入力できない方には直接アンケート用紙をお渡しして記入していただけるよう用意)。質問は昨年度の項目を２～３程度見直し、スクール・ミッション、スクール・ポリシー、教育目標（全体）を添付した。

回収率は生徒８９％(９３・９７・９１％)、保護者　８１％(７８・７３・５９％)、教職員１００％(７６・８６・７６％)となり、特に保護者からの回答率が年々増加している。

(（　)は過去３か年、R６・R５・R４年度の順)

生徒の回答日は冬休み前の授業最終日の１２月２６日(金)で、直前のインフルエンザのための年次閉鎖(12/22～12/24)が影響したため、欠席者には各自での Google フォーム回答を呼びかけたが、例年より低い数値となった。保護者は年をまたいでいた回答期間を年内に変更しても(昨年度:１２月２５日～1 月 7 日)、回答率には影響がみられなかった。

回答の選択肢に、「わからない」を加えてほしいというご意見を検討し、保護者アンケートは

Ａ：よく当てはまる　　Ｂ：だいたい当てはまる　　Ｃ：あまり当てはまらない

Ｄ：当てはまらない　　Ｅ：わからない、の五択とした。生徒、教職員はＡ～Ｄの四択とした。

次に、本校の学校経営と教育課題について、今年度のアンケート結果から考察する。

Ⅰ．本年度の学校経営（概況）

Ａ）全体概況：高い満足度と教育活動の充実

多くの項目で９０％を超える高い評価が得られており、学校生活の充実や学習・進路指導体制が安定していることが伺えた。

①**学校生活の充実度**：生徒の９６％（昨年度８７％)、保護者の９０％(昨年度８３％）が「充実している」と回答している。各種行事は生徒会執行部を中心に種目等様々な工夫を凝らし、全員が楽しめるような生徒会の企画力、生徒一人ひとりの生き生きとした行動力と積極性には目を見張るものがある。

②**ICT 活用**：Google Classroom（生徒９８％ 、教員１００％ ）や「さくら連絡網」（生徒８９％ 、保護者９３％ 、教員１００％ ）の活用が進んでいる。進路・校外活動の情報をＰＤＦ資料とともに配信するなど利点を生かし、家庭での情報共有が可能となるよう工夫した。

③**進路指導**：教職員は進路指導目標の明確化（９７％）に自信を持っており、生徒も情報提供や相談体制に高い満足度（９７～９８％）を示している。

B）**重点課題：**以下の３点が主な課題として表れている。

① **相談体制**・・・生徒と教職員の間で「相談しやすさ」に対する認識の違いがある。

教職員：生徒の相談に対し１００％ 親身に対応していると回答。

生徒：相談できる先生がいると答えたのは８４％、昨年度（７９％）も課題であった項目であるが、５％上昇した。（例：昨年度の１年次は７２％、今年度の２年次は８２％ ）（例：昨年度の２年次は８０％、今年度の３年次は９０％）。 いじめ・体罰防止対策やソーシャルスキル・トレーニング等の生徒支援のためのミニ研修を取り入れながら、教職員同士も相談し合える雰囲気づくりを今後も続けていきたい。

② **生徒と保護者で評価の開きが大きい項目**

- **進路指導における「情報の届き方」：** 進路指導の「注力（項目９）」、「情報提供（項目１０）」、「環境整備（項目１２）」のいずれも、生徒は９７％前後と極めて高く評価している 。しかし保護者の評価は６０％台後半から７０％に止まっており 、生徒が学校で得ている情報や指導の実態が、家庭まで十分に伝わりきっていないという現状がうかがえる。

- **生活指導と施設設備** ：「生活指導（項目４）」で生徒９３％ / 保護者７５％　日々の登校指導、服装チェック、教職員の声掛けなど、生徒は「直接的に」感じられるが、保護者は「我が子の様子」や「家庭への連絡」を通して本校の生活指導を感じる部分であり、学校内での具体的な指導場面を見る機会が少なく学校側の熱量がそのまま伝わりにくい構造がある。また、「施設・設備（項目１８）」で生徒８１％ / 保護者６３％ の開きがある。生徒の視点では、現在の活動が成立しているかという実用面での評価となり、保護者の視点では環境としての質や維持管理のレベルへの評価となっていることが推測される。一方、３年次では生徒・保護者ともに数値が回復している。設備自体の古さよりも「活用度」への評価が上向くものと推測される。

- **災害時の行動と学校生活の安心感**：「災害時にどのような行動をとればよいか具体的に知らされている」という項目について、生徒は９５％と非常に高い理解を示しているが 、保護者は６４％に留まっている 。学校内での指導内容は生徒に浸透しているが、家庭への共有や周知について検討が必要である。「学校は安全に生活できる場となっている」（項目３）も開きが大きい。特に２年次において顕著である。生徒視点では学校生活に慣れ、人間関係や校内環境に適応している時期（１２月のアンケート時）だが、保護者視点では 中だるみや生活態度の変化、あるいは校内でのトラブルへの懸念などが表れ、家庭からの評価がより厳しい結果となっている。生徒が実際に「安全」だと感じている事実は、学校経営において非常にプラスの要素である。生徒が学校で感じている「日常的な安全（教職員の目が行き届いている、友人関係が良好など）」が、思春期の多感な年代ではあるが家庭内の会話等で少しでも伝わっていくことを願いたい。

③**社会や地域に貢献する活動…生徒**：４６％ 、**保護者**：４０％ 、**教職員**：７８％

生徒・保護者の認識が低く、学校外での活動機会の認識や、既存の活動の周知が不足している

可能性がある。フードドライブや雪灯籠制作など活動の意義付けを再確認していきたい。
生徒の設問にはボランティアと明記されている点や年数回の活動に対して「積極的に参加している」とは言えないと判断したことも回答の差の一因と思われる。行動(Activity)を学び(Learning)と自己認識(Identity)につなげることが、「地域を支え社会をリードする人材の育成」という本校のスクールミッション達成の推進となる。

C）学校行事等について

・夏季の学校行事では熱中症対策として、エアコン設置教室等での開催やリモート開催により対策を講じて実施した。
・部活動、学校行事ともに生徒を主体とした取り組みで盛り上がった。
・修学旅行では、予定通り関西方面へ３泊４日の研修を行った。
・年間通して、予定通り授業時数は確保された。

D）本校志願者を増やす工夫について

・高校入学者選抜：Ｒ８　前期特色選抜２．２３倍(定員の３０％程度)
　　Ｒ７　前期特色選抜２．３５倍(定員の３０％以内)・一般選抜０．９６倍
　　Ｒ６　本校志願者１．０２倍
　　Ｒ５　本校志願者０．５９倍
・今年度は各中学校に出向いての学校説明会の企画を拡大し、アンケート調査を行って日程調整をお願いし計８回実施できた。また、置賜地区２年・３年全員に学校案内パンフレットを７月を目途に配布して多くの中学生に本校を身近にとらえてもらえるよう工夫した。
・オープンスクール(８月４日実施)は、昨年度同様エアコン設置教室を活用し、熱中症対策を講じて実施した。中学生の申込み数は４７０名と過去最高であった。
（Ｒ６年度３８０名・Ｒ５年度３０２名）
・昨年度の Ｒ７前期特色選抜入試の先進校の一つ(県内３校)であったことから、引き続き中学生が不安なく前向きに出願・受検できるよう、一連の流れを構成して８月４日のオープンスクール、９月２２日・９月２９日の入試説明会(中３生対象)、１１月１８日のオンラインによる出願説明会(中学校教員対象)、を実施した。Web 出願への切り替え年度にあたるため、丁寧な説明を心がけた。
・昨年度より引き続き公式インスタグラムやフェイスブックを活用し、生徒・職員の協力を得ながら学校生活をリアルに紹介し、生徒が主体的に学校生活を送る様子が伝わるよう努めた。インスタグラムのフォロワー数は３４７１(２月３日現在)、１万回単位で再生回数が伸びている投稿がコンスタントにある。また、クラスや部活動単位で積極的に関わる姿が増えている。

Ⅱ．アンケートの数値分析

１．≪学習指導≫

①　質問内容は「家庭学習に主体的、計画的に取り組んでいるか」に対し、肯定的な意見(A+B)は（以下同様の集計）、下記の一番右の数値である。該当項目は、質問事項７（生徒・保護者）・６（教職員）である。

生　徒：　７４％(R３）→　７０％(R４）→　７７％(R５）→　７０％(R６）→　７８％(R７）
保護者：　７３％(R７）　　教職員：　９７％(R７）
年次別では １年次生６９％（昨年度５６％）、２年次生７１％（昨年度７６％）、３年次生９４％（昨年度８５％）

１年次生と 3 年次生に昨年度より伸びが見られる。「主体的」な学習活動は各々の興味関心を引き上げ、進路実現に向けた学力向上の土台となるものである。

「課題の分量・内容は適切である」とする教員は１００％である。「課題」については、授業内容を定着させるために必要な学習量である。高校生活の限られた３年間で実力を身につけられるよう、1 年次からの基礎力の定着を意識づけし、授業の予習復習・課題と継続した地道な取り組みが必要である。

②　本校独自の取り組みの質問項目として、質問事項 6（生徒）・9（教職員）「i-See プロジェクトの意義を十分理解し、積極的に取り組んでいる」に対する回答では、生徒の高い意識が数値に現れている。

生　徒：９４％(R３）→　９３％(R４）→　９５％(R５）→　９２％(R６）→　９７％(R７） 年次別では １年次生９７％(８９％(R６))、２年次生９７％(９４％(R６))、 ３年次生９６％(９４％(R６))

全体的に高い意識での取り組みが継続している。大学等の入試の多様化に伴い、探究内容は面接やエントリーシートでも活用されることがますます多くなっている。教職員は一人一台端末の活用にとどまらず､生成 AI を導入するなど ICT のスキルアップを図り､生徒の様々な興味関心を支援している。本校独自の取り組みである「地元企業調査」や課題研究発表会（スライド）では、外部有識者の協力をいただきプロジェクトの中核を成している。

２．≪生活指導≫

①　質問事項 2「私の学校生活は充実している」の肯定的数値は、９６％を超える良い数値が出ている。

生　徒：８４％(R３）→　８３％(R４）→　８７％(R５）→　８７％(R６）→　９６％(R７） 年次別では １年次生９６％(昨年度８５％)（保護者９３％） ２年次生９５％(昨年度８３％)（保護者８６％） ３年次生９８％(昨年度９１％)（保護者９１％）

生徒については昨年以上に高い数値で、９割以上の生徒が毎日の生活が充実していると考えられる。どの年次でも高く、特に３年次生が充実感をもって卒業できることは大変喜ばしい。

生徒・保護者・教職員の相互の意思疎通を図りながらより一層の信頼関係を深め、こうした数値に表れない生徒の存在に留意し、気持ちをすくい上げる指導に生かしていきたい。

② 質問項目　生徒・保護者４「学校は生活指導に力を入れている」・教職員３「生活指導について、全職員が共通認識を持ち、一体となって取り組んでいる」については、生徒:９３％、保護者７５％、教職員７３％と保護者と教職員の数値がほぼ一致している。「生徒には指導が届いているが、教職員側も『組織としての統一感』にはまだ課題があると感じており、それが保護者の評価の低さとして現れていることが推測される。高校生活の中で服装や身だしなみといった社会規範を身につけながらも、ルールやマナーの意味について生徒自らが主体的に考え行動できるような取り組みを模索する時期にあるといえる。

３．≪進路指導≫

① 「進路決定のための情報が提供されている」の質問１０は、

生　徒：９７％(R７)　保護者：６８％(R７)

生徒には「情報提供がなされている」という高い評価を得ているが、保護者の受け止め方とは大きく開きがある。選択肢に E:わからないを加えたことも一因となっている。

保護者質問の１２「進路講演会や進路相談が適切に行われている」では、全体で８２％の方が適切であると回答している。情報提供は生徒を介したプリント配布、「さくら連絡網」の活用等で保護者にも伝えられるようになっているが、より具体的な資料や情報を求める傾向もあり、一層の工夫が必要である。

② 「進路相談が適切に行われている」の質問１１・教職員１７は、

生　徒：９８％(R７)　保護者：８２％(R７)　教職員：９７％(R７)

生徒・保護者とも高い評価を得ている。昼休みや放課後に時間を取り、生徒面談をしている教職員もいる。多忙な校務の中、進路指導課や各年次団の努力の跡が伺える。今後も生徒と保護者の進路に関する相談要求は常に高いことを意識していかねばならない。

４．≪総務・教育環境≫

質問項目　「災害・事故等の非常時の備えや行動について」の質問には、

１９「学校で地震や火災などが起こった場合、どのような行動をとれば良いか具体的に知らされている」 生　徒：９５％(R７) ２６「災害・事故・事件等に対して迅速かつ適切な対応ができるよう役割分担が明確化されている」 教職員：９２％(R７)

生徒は高い数値を示し、安全についての意識が高いといえる。昨年来、雪による窓ガラスの破損・列車の運休、熊の出没など、より迅速な対応と生徒のプライバシーや心理的安全性を守る必要が高まっている。

また、年２回の避難訓練の中で、消防署の指導を受け、避難経路確保や消火栓周りの確認等、より徹底した防火対策を行った。生徒の日常で生活体験が減っている昨今、消火器訓練に加え放水訓練等の実訓練を今後も重視したい。

生徒２０「Google クラスルーム」の授業・その他での活用について 「役立っている」と回答した生徒は９８％である。 教職員２９「グループウェア・Google クラスルーム・さくら連絡網を有効に活用している」 １００％

設備に関しては、Wi-Fi・一人一台端末・iPad・スマホなどが全教室で使える環境が拡充した。授業や校務において Google for Education の活用は必須となっている。今年度は教育センターの指導の下、生成 AI 研修を実施した。今後の授業に活かされていくことが期待される。

生徒２１・保護者２１質問項目「さくら連絡網」の活用について 「役立っている」と回答した生徒は８９％（保護者９３％）である。

働き方改革のひとつとして、時間外の電話対応を留守番電話のメッセージ案内に切り替えさせていただいている。さくら連絡網は生徒・保護者と学校間の緊急連絡手段としての役割を果たし、定着している。

5　≪教職員に対するアンケートについて≫

質問項目　教職員２８「施設・設備の拡充」７０％（７５％(R６)）

体育館(特に屋根部)と南校舎が老朽化しており、雪による屋根や窓の破損・カーテンの開閉・タイルの剥がれなど、トラブルが多発している。緊急性の高いものについては予算がつき改修を進めているが、東校舎についても老朽化が見られ修繕箇所の要望が多くなっている。

今年度の修繕の大きなものとしては、体育館破風と窓ガラス、西校舎の屋根まくれの応急処置があった。

老朽化した校舎の修理に関しては教育政策課に要望しているものの、「県立高校再編整備基本計画」のこともあり、予算化はなかなか困難な状況である。毎月の安全点検を活かし、安全な学習環境の保全に努力を続けたい。

酷暑対策（熱中症対策）のための冷房機械の設置については、実習教室等設置されていない教室も多く、設置に向けて県への継続した要望を行い計画的に進めていきたい。スクールマスターの更新、女子トイレの洋式化について、来年度の工事に向けて準備段階に入っている。